※令和４年度以降入学生用

学校番号	1014

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	保育実践	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	保育実践　（実教出版）						
副教材等	保育基礎　（実教出版） 保育基礎　学習ノート　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

乳幼児の発達の特徴や保育に関する知識と技術を、実習を交えながら学びます。子どもの健全な成長を図る能力と態度が育まれます。実習は地域のこども園、和泉市の育児支援と連携して行います。また、卒業後の進路選択の一助となるよう、保育系の専門学校や短期大学との連携授業を行います。

学習方法
〇保育や子育て支援に関する知識を実際の保育現場で確認する。
〇実際に乳幼児と関わり、保育者としての視点を持った保育計画を立て実践する。
〇周りの生徒と共同しながら主体的に学び、保育教材を制作する。

２　学習の到達目標

子どもの表現活動や子育て支援について理解し、関連する技術を身につける。また、保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	乳幼児の保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身につけている。乳幼児の発育・発達について理解するとともに、乳幼児の健全な発育・発達を促す生活についての知識を身につけている。	保育や育児支援について課題を見つけ、その解決を目指して試行を深め、適切に判断し、創造的に解決する能力を身につけている。年齢に応じた児童文化財を適切に制作できる。	乳幼児の健全な成長について関心を持ち、関わろうとする意欲や実際にかかわることのできる能力と実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	子育て支援と保育	1. 子ども・子育ての問題 2. 子育て支援のための各種施設 3. 子育て支援 4. 短期大学出前授業	a:子ども・子育ての問題について理解している。 子育て支援施設の種類や役割をわかっている。 b:子どもの特性を理解したうえで適切な対応の仕方について判断し、行動できる。子供や子育てを取り巻く問題点や課題を分析し、望ましい方向性について理解している。 c:主体的に学習に取り組んでいる。	・プリント ・学習ノート ・作品	・作品 ・学習ノート ・実習レポート ・作品	・実習レポート
	保育の活動計画と実習	1. 保育の活動計画と実習 2. 保育見学 3. 保育実習	a:保育計画の構成を理解している。保育実習を行うにあたっての知識を身につけている。 b:子どもの発達・興味に応じた保育計画を立てられる。こども園での実習を通して子どもの生活や行動を観察し、客観的に分析し、それらをレポートなどの形式でまとめることができる。 c: 主体的に学習に取り組んでいる。	・プリント ・学習ノート ・作品	・作品 ・学習ノート ・実習レポート ・作品	・実習レポート
後期	子どもの表現活動と保育	1. 造形表現活動 2. 言語表現活動 3. 保育実習	a:子どもの表現活動の違いや特徴について理解している。 b:年齢や子どもの発達に適した表現活動を選択し、保育の中に取り入れることができる。子どもの表現活動を伸ばすような工夫ができる。 c: 主体的に学習に取り組んでいる。	・プリント ・学習ノート ・作品	・作品 ・学習ノート ・実習レポート ・作品 ・発表	・実習レポート

※令和４年度以降入学生用

	子どもの表現活動と保育	1. 音楽･身体表現活動 2. 保育実習	a:子どもの表現活動の違いや特徴について理解している。 b:年齢や子どもの発達に適した表現活動を選択し、保育の中に取り入れることができる。子どもの表現活動を伸ばすような声掛けを工夫する。 c: 主体的に学習に取り組んでいる。	･プリント ･学習ノート ･作品	･作品 ･学習ノート ･実習レポート ･作品	･実習レポート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度